

■タイトル

立場を越え、共に東北の強い未来を作る

「東北の未来と可能性を考えるシンポジウム～可能性に溢れる東北の未来～」を開催

■本文

十一月三十日、土樋キャンパス・押川記念ホールにて「東北の未来と可能性を考えるシンポジウム～可能性に溢れる東北の未来～」が開催され、学生、市民ら約 450 人が参加した。主催は東日本大震災の復旧活動を共にした地元企業が集結した一般社団法人「東北復興プロジェクト」で、東北学院大学が共催した。

はじめに星宮望学長が「立場を超えた新しい視点から東北の未来を構想する東北復興プロジェクトの考え方に賛同し、東北学院大学はもてる資源を導入し貢献したい」とあいさつした。

続いて同プロジェクトのパートナーである株式会社リバースプロジェクト代表で俳優の伊勢谷友介氏が記念講演を行なった。人類が地球上に生き残るために何が必要か考え、再生をテーマに活動してきた伊勢谷氏。震災後は Twitter を通じて多くの人とつながり「元気玉プロジェクト」など、始動した幾つかの支援プロジェクトについて述べた。「一人ひとりの力は小さくても、皆が力を出し合えば大きなかたまりになる。想うだけでなく、具体的に行動することが大事。皆で考え皆で成長し、日本を良くしましょう」と呼びかけた。また同プロジェクトに参画するタレントのコロケ氏の激励のビデオレターも披露された。

続くパネルディスカッションでは、2012年春に名取市にオープン予定の生産と加工、販売、復興などをつなぐ6次産業化のモデルファーム「東北ROKUプロジェクト」に関わるパネラーが登壇した。本学教養学部の中核に教育が関わっていることに共感した。未来の主役になる学生がボランティアの現場で体験し学んだことを地域や生活に浸透させていくことが大切。このプロジェクトを経済活動とは違う立場から応援したい」と語り閉会した。

最後に、東北学院大学学長室長で災害ボランティアステーション所長の佐々木俊三先生より「このプロジェクトの中核に教育が関わっていることに共感した。未来の主役になる学生がボランティアの現場で体験し学んだことを地域や生活に浸透させていくことが大切。このプロジェクトを経済活動とは違う立場から応援したい」と語り閉会した。